

資料 3

市町の取組

福所江水系

佐賀市の取組 「佐賀市排水対策基本計画」

近年の気候変動に対応するため、「排水対策基本計画」を改訂します。

排水対策基本計画

現在進めてきた対策

- 河川・水路の整備、ポンプ場の整備
- 佐賀城お濠の活用、田んぼダムの拡大
- 国・県、地元との連携（事前排水など）



H26.3 策定

R2.6 改訂(第1回)

H21.7

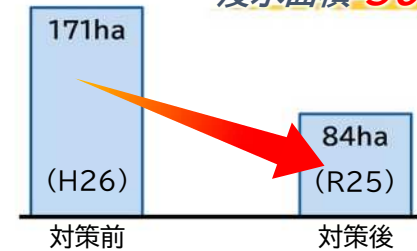
R5.7



同規模の大雨
に対して

浸水面積
約1/3減

目標① 10年に1度の大雨
浸水面積 50%減



R8.3 改訂(第2回)

気候変動の
影響への対応

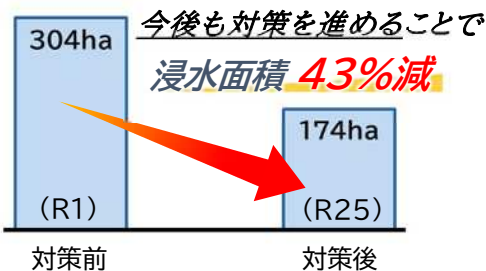


R1.8



110mm/h

R1.8豪雨のような
10年に1度を超える大雨を
最新情勢を反映して検証



佐賀の地形的特性 | 低平地

勾配が緩いため、水はけが悪く、
満潮時は自然排水が困難

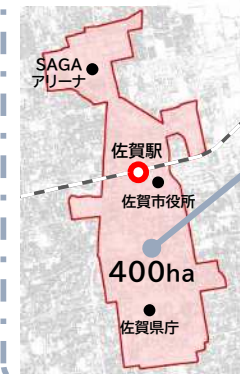
→内水氾濫で浸水しやすい



さらなる対策を**上乗せ!**

流域治水を推進し
溜める対策を強化!

【追加】 県都として都市機能への
目標② 影響を最小限に抑える



佐賀駅周辺の
公共用地などで
雨水を貯留
(約1.4万m³)

市内平野部全域に

佐賀市の取組 「佐賀市排水対策基本計画」

—福所江二級水系流域治水協議会—

上乗せ対策で浸水リスクを軽減し、未来に備えた“溜める力”を強化します。



溜める
対策

現在進めている
対策も
さらに強化！



現在進めている
対策による 浸水軽減効果

上乗せ対策で
さらに底上げ！



浸水時間 9時間減 (11時間 → 2時間)
R1 対策後
浸水深 16cm減 (30cm → 14cm)

一人ひとりが「自分事」として備えることが大切。
佐賀市も情報発信を強化していきます。

改訂版をホームページで公表(R8.3末)

佐賀市の取組 「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」

護岸整備「準用河川 西田川整備事業」

【現状】

佐賀市内北西部を流れる西田川は、2級河川梨の木川を通じ、2級河川福所江に流れる河川で、近年の大雨等による急激な水の流れと流量の増加により護岸が洗掘され、法面の流失や崩落などの被害が生じていたため、護岸整備を行った。

引き続き、下流側も護岸整備を行う予定としている。

【事業概要】

- 令和5年度～令和7年度 3か年
- 護岸工(コンクリート杭柵工) L=360.0m

【補助制度】

- 緊急自然災害防止対策事業債[充当率100%、交付税措置70%]



排水ポンプ車の運用「さがまもるくん」

【目的】

これまでの排水対策の取り組みを補完並びに強化するもので、緊急出動において機動的かつ迅速な対応を行い、氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

【運用】

主に市内7箇所での稼働を計画。二級河川福所江川の下流にある干拓排水機場・干拓排水樋管(佐賀市久保田町)が対象

【排水ポンプ車概要】

- 8t車搭載型(4tロングボディトラック・総重量8t未満)
- 排水能力:30m³/min 以上(全揚程10mの場合)
- 排水運転時間: 連続運転時間48時間
- 積載排水ポンプ: 4台(7.5m³/min ポンプ×4)



小城市の取組について 1/2

— 福所江二級水系流域治水協議会 —

【1】氾濫を出来るだけ防ぐ・減らすための対策

■ 排水機場のポンプ更新

- ・ 鉾害復旧事業で建設された排水機場(7施設)は、現在では建設30年から40年を迎えている。
- ・ 今後は老朽化により整備・更新が必要となる施設が増加することが予想され、これに伴い施設の維持管理に要する費用も年々増加すると考えられることから、計画的な排水機場のポンプの更新が必要。
- ・ 令和7年度に満神排水機場のポンプ(4基中1基)川越排水機場のポンプ(2基中1基)の更新向けの工事を行っている。※令和7年度完了予定。



令和3年8月14日 18:00 撮影

【2】被害対象を減少させるための対策

■ 都市計画マスタープランの見直し

- ・ 現行の小城市都市計画マスタープランに「六角川水系」関連方針を追記、又地域別構想(4町別)を見直しにより追加している。
- ・ 地域別構想には①地域の概要、②住民意向等、③地域づくりの目標、④地域づくり方針(方針図)の4項目で構成し、方針については、①拠点形成、②市街地整備、③交通基盤整備、④環境・資源の保全・活用、⑤防災対策の5つの視点で分類。
- ・ 立地適正化計画については見直し中。



令和4年3月策定



小城市地域の地域づくり方針には遊水地事業についても掲載

【1】氾濫を出来るだけ防ぐ・減らすための対策

■ 排水機場のポンプ更新

- ・ 鉾害復旧事業で建設された排水機場(7施設)は、現在では建設30年から40年を迎えている。
- ・ 今後は老朽化により整備・更新が必要となる施設が増加することが予想され、これに伴い施設の維持管理に要する費用も年々増加すると考えられることから、計画的な排水機場のポンプの更新が必要。
- ・ 令和7年度に満神排水機場のポンプ(4基中1基)川越排水機場のポンプ(2基中1基)の更新向けの工事を行っている。※令和7年度完了予定。



令和3年8月14日 18:00 撮影

【令和4年度】

満神排水機場のポンプ更新(4基中2基)に向けた設計委託を行った。

【令和5年度】

前満江排水機場のポンプ更新(3基中1基)三王崎排水機場のポンプ更新(3基中1基)に向けた設計委託を行った。

【令和6年度】

満神排水機場のポンプ更新(4基中2基)前満江排水機場のポンプ更新(3基中1基)三王崎排水機場のポンプ更新(3基中1基)を行った。

満神排水機場のポンプ更新(4基中1基)川越排水機場のポンプ更新(2基中1基)に向けた設計委託を行った。

【令和7年度】

満神排水機場のポンプ(4基中1基)川越排水機場のポンプ(2基中1基)の更新向けの工事を行っている。※令和7年度完了予定。

上坪排水機場のポンプ更新(3基中1基)三王崎排水機場のポンプ更新(3基中1基)に向けた設計委託を行った。



令和4年3月策定



小城市地域の地域づくり方針には
遊水地事業についても掲載

【3】被害の軽減・早期復旧・復興のための対策

■ 防災情報を共有できる情報アプリの改良と周知及び活用の推進

- ・ 市が発信する大雨警報や避難所などの防災情報をプッシュ通知で知らせる。
- ・ 災害情報だけでなく、「天気予報」や「市の情報」などが見れることを活かし、住民に広く周知し、**平時からの利用の推進**を行う。
- ・ 防災行政無線、災害情報等配信サービスに加えて、災害情報を発信するツールとして活用し、継続的に改良、**住民への周知**を行なっていく。

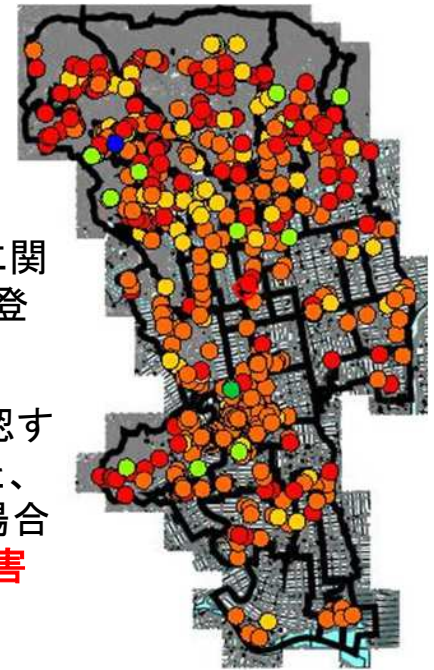


■ 避難確保計画の作成の推進

- ・ 令和3年12月に洪水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域に位置する要配慮者利用施設へ避難確保計画説明会等の実施（対象施設は108施設）
- ・ 令和8年1月末現在、避難確保計画作成率約97%
- ・ 引き続き対象となる要配慮者利用施設の**避難確保計画作成完了を目指す**。

■ 防災システム(GIS)の運用開始

- ・ 令和3年8月豪雨災害から本格稼働。
- ・ 住民による電話、現地確認等災害対応に関わるすべてを防災システム(GIS)に登録。（登録件数：約960件）
- ・ 全庁的に被災箇所、問合せ情報等を確認することができ**情報の共有化**が図られた。また、災害の受付部署と現地対応部署が異なる場合でも引継ぎをスムーズに行うことができ、**災害対応の迅速性**につながった。



令和3年8月豪雨災害プロット状況